

環境活動レポート

甲信商事株式会社

目次

1. 環境方針	・・・1
2. 会社概要	・・・2
3. 事業内容	・・・3
4. 実施体制	・・・4
5. 環境目標	・・・5
6. 環境負荷と実績	・・・6
7. 環境活動の取り組み結果と評価	・・・8
8. 代表者による全体評価と見直しの結果	・・・11
9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果ならびに違反、訴訟等の有無	・・・11

平成25年度版(平成25年4月～平成26年3月)

平成26年6月30日作成

エコアクション21環境方針

環境基本理念

甲信商事株式会社は、誠実・協和・奉仕をモットーにお客様の事業と社会に貢献する企業として法規制を遵守し、あらゆる事業活動に於いて自主的継続的に環境保全活動に取り組みます

環境行動方針

1. 事業活動全般に関わる環境保全の継続的改革及び環境汚染の未然防止に努め、企業の社会的責任を遂行します。
2. 環境に関連する法令や規制及びその他の要求事項を遵守し、利害関係者の見解に配慮します。
3. 社員全員が積極的に環境保全に関心を持ち、下記の事項を重点活動テーマとして取り組みます。

① 使用電力、化石燃料量の削減に努めます。

② 全ての廃棄物を分別して再資源化に努めます。

③ 環境に優しい製品への提案と省資源に努めます。

④ 水資源の削減に努めます。

⑤ グリーン購入を推進していきます。

4. この環境方針は、全ての社員に周知徹底し、活動する事を誓います。環境方針の実現により、美しい地球を子孫の為に残せるよう継続します。

平成25年3月25日

長野県松本市双葉7番3号

甲信商事株式会社

代表取締役
横山 晋一

2. 会社概要



KOSHIN Trading Co.,Ltd.

当社は昭和22年三菱商事(株)の解体に際し
松本及び甲府事務所の社員を中心として設立しました。
以来、三菱の流れを汲む地域の専門商社として『誠実』なる取引
『協和』なる社内 『奉仕』する精神 をモットーとして
今日に至っております。

営業品目も多岐に亘り、昨今の環境変化の著しい時代に於いても
強い対応力を持ち、グローバルビジネスを進めるお客様の
ニーズにお答えしております。

地域に密着して行くことを使命としており、長野、山梨両県下に8拠点を有しております。



事業所名 甲信商事株式会社

代表取締役 横山 啓一

設立 昭和22年7月31日

資本金 6,720万円

従業員数 67名

・環境管理責任者

片桐 行高

連絡先 0263-28-1100

E-mail katagiri@koshinshoji.co.jp

・環境管理担当者

菅原 育幹

連絡先 0263-28-1100

E-mail sugawara@koshinshoji.co.jp

所在地

		TEL	FAX
・本社			
〒390-0833	長野県松本市双葉7-3	0263-28-1100	0263-27-3111
・甲府支店			
〒409-3845	山梨県中央市流通団地3-4-1	055-273-5011	055-273-0664
・建材営業部			
〒399-0005	長野県松本市野溝木工1-3-36	0263-25-8840	0263-25-9337
・上田営業所			
〒386-0005	長野県上田市古里篠井原711-3	0268-27-8801	0268-27-9419
・諏訪営業所			
〒393-0047	長野県下諏訪町西赤砂4384-1 みなとやビル3F	0266-28-8155	0266-28-8156
・長野営業所			
〒381-2206	長野県長野市青木島綱島字往来下498-13	026-286-0031	026-285-7714
・飯田営業所			
〒395-0804	長野県飯田市鼎名古熊2151 プリマヴェーラ稲丘1F	0265-21-2450	0265-21-2451
・伊那営業所			
〒399-4501	長野県伊那市西箕輪7102-1 フリックエスピア205	0265-71-5588	0265-71-5585

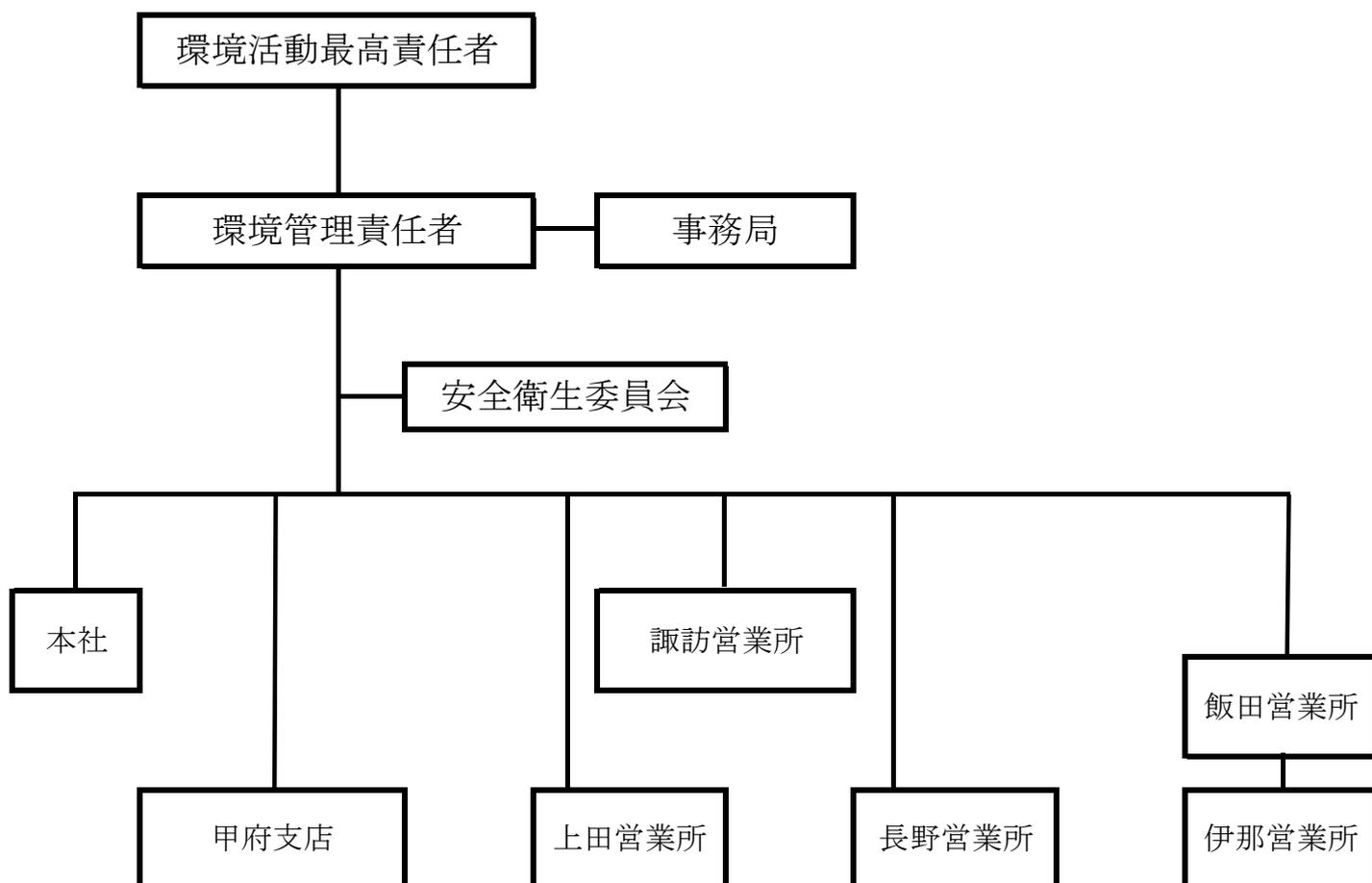
3. 事業内容

- 工作機械及び関連機器・工具の販売
- 鍛圧・板金機械、塗装設備、熱処理設備
- 洗浄・計測・物流・環境 各装置及び機器の販売
- 上下水道施設の機械器具及び電気計測装置の設置工事
の施工・保守管理並びに水道用資材・機器の販売
〈建設業の許可:建設大臣〉
〈ISO9001 認証:施工に適用〉
- 建材・金属・塗料・工業薬品・肥料・農薬の販売

エコアクション実施体制

作成日:平成18年3月25日

改定日:平成26年3月30日



○伊那営業所について
甲信商事(株)伊那営業所は常に従業員が常駐していません。今までと同様に環境負荷にはあまり影響しないので飯田営業所に包含して活動しています。

○建材部営業所について
平成25年9月に移転し、本社と統合になった。そのため、通常業務及び環境活動は本社として活動を行うため、建材部営業所の拠点の拠点は廃止した。

5.環境目標

環境目標は以下の通りである。

	環境目標項目	基準値 (基準年度)	年度毎目標・達成手段		
			平成25年	平成26年	平成27年
全般	二酸化炭素排出量の削減	平成19年度 328,988(kg-CO ₂)	6%削減	6%削減	6%削減
省エネ	消費電力の削減	平成19年度 147,054(KWH) 55,586(kg-CO ₂)	10%削減	10%削減	10%削減
	化石燃料の削減 ガソリン 軽油	平成19年度 65,405(ℓ) 151,848(kg-CO ₂) 47,451(ℓ) 110,167(kg-CO ₂)	5%削減	5%削減	5%削減
廃棄物の削減 省資源	金属類の分別、資源化	平成20年度 455(kg)	リサイクル率 100%	リサイクル率 100%	リサイクル率 100%
	プラスチック類の分別	平成20年度 610(kg)			
	紙類の購入量削減	平成19年度(購入量) 443,500枚	25%削減	25%削減	25%削減
省エネ	水資源の節約	平成19年度 609m ³	3 %削減	3 %削減	3 %削減

※平成23年度当初の目標

※削減の目標はすべて基準値からの削減%である。

主な活動内容としては各項目につき以下のこととなっている。

・消費電力の削減

- ①室内、室外、照明の消灯(LED型電灯への交換推奨)
- ②室内冷暖房の適正温度厳守 設定温度 暖房23℃< 冷房28℃>
- ③自販機の照明除去
- ④昼休みの事務所内の消灯
- ⑤エアコンの使用時間の限定(10:00~18:00)

・化石燃料の削減

- ①アイドリングは最低限に努める
- ②法定速度遵守、過積載厳禁、配送業務の計画的、効率的運用
- ③暖房設定温度 23℃以下
- ④給湯用ガスの節約励行啓蒙

・廃棄物の分別

○表示した指定保管場所の保管箱に収納し、一定量に達したらグループ地域内回収業者を決定し管理責任者が持込又は回収を指示する。この場合排出量の計測を行う。

○缶類に付いては内側洗浄乾燥の上、紙類と同様の手段で行う。

その他の金属類は分別が困難のため保管場所を決め、一定量に達したら金属処理業者へ持込又は回収依頼。

○ペットボトル(再資源化マーク有)は蓋を取り除き指定保管場所の指定袋に収納し一定量に達したら指定回収業者に依頼。

プラスチックごみは一般廃棄物(焼却ごみ)として回収業者に引き渡す。

廃プラは産業廃棄物としてマニフェストを作成し指定業者に回収を依頼する

・紙類の購入量削減

- ①両面印刷、両面コピーの励行
- ②裏紙利用(機密性のない外部文書も含む)
- ③会議資料等の簡素化(プロジェクター利用による無駄紙排除含む)

・水資源の節約

節水活動の啓蒙

6. 環境負荷と実績

過去3年分の活動規模と環境負荷の実績については以下の表のとおりである。

○事務所関係

活動規模	単位	23年	24年	25年
売上高	百万円	5,432	4,916	6,503
全社人員	人	69	69	70

		単位	23年	24年	25年
総エネルギー投入量	購入電力	MJ	1,099,839	1,271,963	1,557,219
	化石燃料	MJ	4,066,598	3,894,034	3,888,657
水資源投入量	上水	m ³	591	600	582
温室効果ガス排出量	二酸化炭素	Kg-CO ₂	326,975	323,295	343,483
廃棄物等総排出量	熱回収	t	2.0	1.3	1.5
	単純焼却	t	17.4	18.7	11.7
総排水量	下水道	m ³	591	600	582

従業員一人当たり環境負荷は以下の表のとおりである。

		単位	23年	24年	25年
総エネルギー投入量	購入電力	MJ	15,940	18,434	22,246
	化石燃料	MJ	58,936	56,435	55,552
水資源投入量	上水	m ³	9	9	8
温室効果ガス排出量	二酸化炭素	Kg-CO ₂	4,739	4,685	4,907
廃棄物等総排出量	熱回収	t	0.03	0.02	0.02
	単純焼却	t	0.25	0.27	0.17
総排水量	下水道	m ³	9	9	8

売上高による百万円あたりの環境負荷は以下のとおりである。

		単位	23年	24年	25年
総エネルギー投入量	購入電力	MJ	202	259	239
	化石燃料	MJ	749	792	598
水資源投入量	上水	m ³	0.11	0.12	0.09
温室効果ガス排出量	二酸化炭素	Kg-CO ₂	60	66	53
廃棄物等総排出量	熱回収	t	0.0004	0.0003	0.0002
	単純焼却	t	0.0032	0.0038	0.0018
総排水量	下水道	m ³	0.11	0.12	0.09

○工事関係

活動規模	単位	23年	24年	25年
売上高	百万円	5,432	4,916	6,503
全社人員	人	69	69	70

		単位	23年	24年	25年
総エネルギー投入量	購入電力	MJ			
	化石燃料	MJ			
水資源投入量	上水	m ³			
温室効果ガス排出量	二酸化炭素	Kg-CO ₂	7,842	0.00	9,971.00
廃棄物等総排出量	熱回収	t			
	単純焼却	t	4.00	0.00	3.70
総排水量	下水道	m ³			

従業員一人当たり環境負荷は以下の表のとおりである。

		単位	23年	24年	25年
総エネルギー投入量	購入電力	MJ			
	化石燃料	MJ			
水資源投入量	上水	m ³			
温室効果ガス排出量	二酸化炭素	Kg-CO ₂	113.65	0.00	142.44
廃棄物等総排出量	熱回収	t			
	単純焼却	t	0.0580	0.0000	0.0529
総排水量	下水道	m ³			

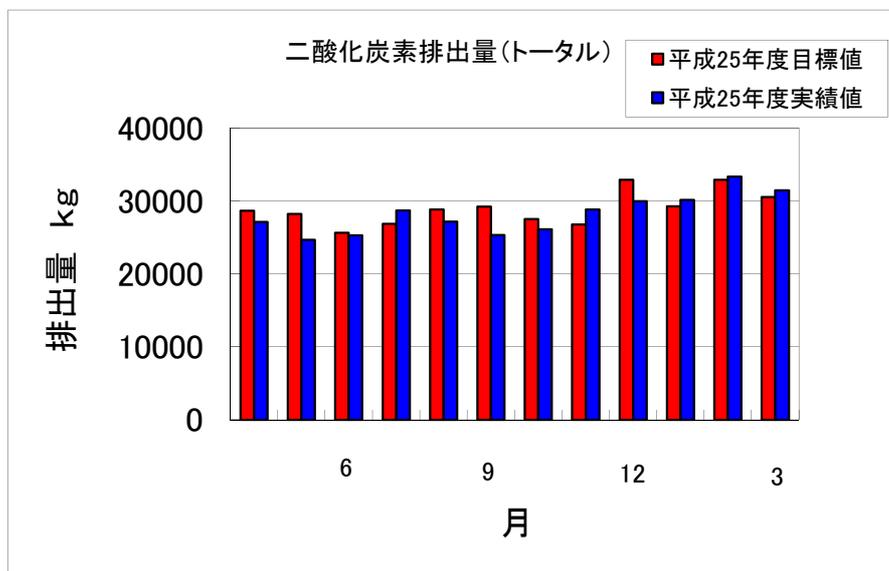
売上高による百万円あたりの環境負荷は以下のとおりである。

		単位	23年	24年	25年
総エネルギー投入量	購入電力	MJ			
	化石燃料	MJ			
水資源投入量	上水	m ³			
温室効果ガス排出量	二酸化炭素	Kg-CO ₂	1.444	0.000	1.533
廃棄物等総排出量	熱回収	t			
	単純焼却	t	0.000736	0.000000	0.000569
総排水量	下水道	m ³			

7.環境活動の取り組み結果と評価

☆事務所の結果と評価

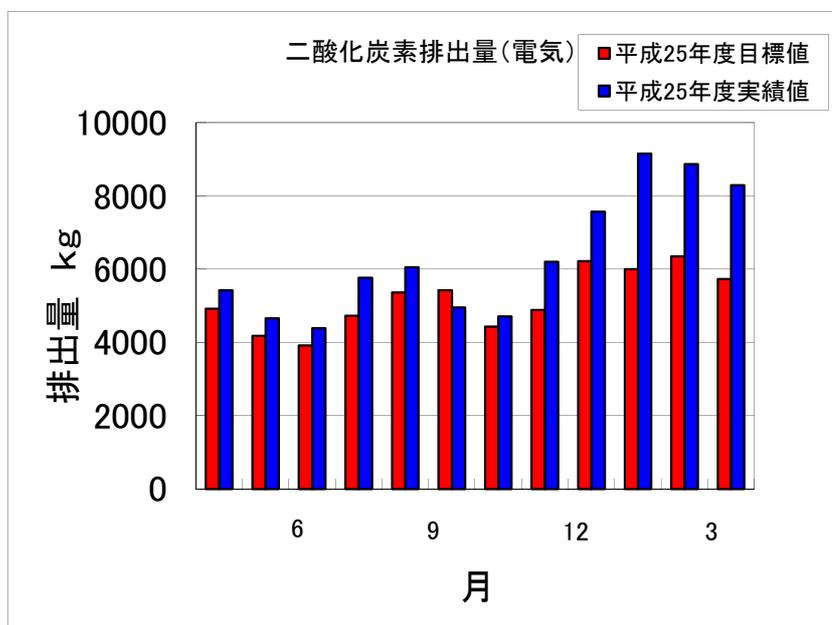
○二酸化炭素排出量の削減



平成25年度の二酸化炭素の排出量は343,483kg-CO₂であった。目標として数値よりも削減することができたが、平成24年年末に新社屋への移転があり、平成25年9月には建材部が本社と統合になったなど大きなイベントがあった。各項目については後に述べるとして次年度については目標値の設定、活動も含めしっかりと取り組んでいきたい。

	(kg-CO ₂)	(kg-CO ₂)/人
目標数値	347,564	4,965
平成25年度	343,483	4,907
比	0.988	
		売上あたり(百万)
		53
		53

○消費電力(電力使用量)の削減について



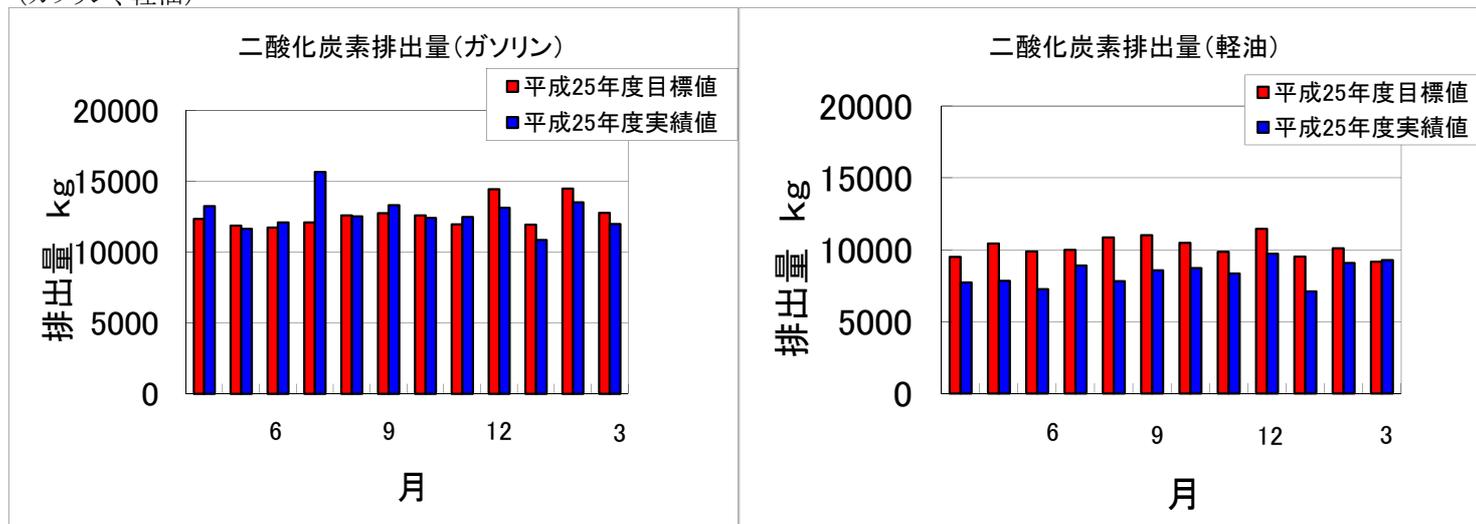
平成25年度の消費電力によるCO₂の排出量は81,267kg-CO₂であった。目標を達成できなかったのは本社新社屋の数値が目標に反映されていないからである。本社新社屋においては高圧電力でありデマンド監視により50kwにて監視をしている。また、3階廊下に人感センサーの設置、会議室はスイッチを増設して、小分けに電気をつけられるようにした。全社の取り組みとしては昨年引き続きエアコンの使用温度及び使用時間を決めての使用、昼休みの消灯や出かける際はPCの電源を切るなど、無駄な電力の使用を抑えるよう全社員で取り組んでいる。購入するPC、OA機器などは省エネタイプのものを購入するようにする取り組みも行っている。

	(kg-CO ₂)	(kg-CO ₂)/人	(kg-CO ₂)/百万
目標数値	62,204	889	9.6
平成25年度	81,267	1,161	12.5
比	1.306		

※電力の排出係数は0.513(kg-CO₂/kWh)を使用した。

○化石燃料の削減について

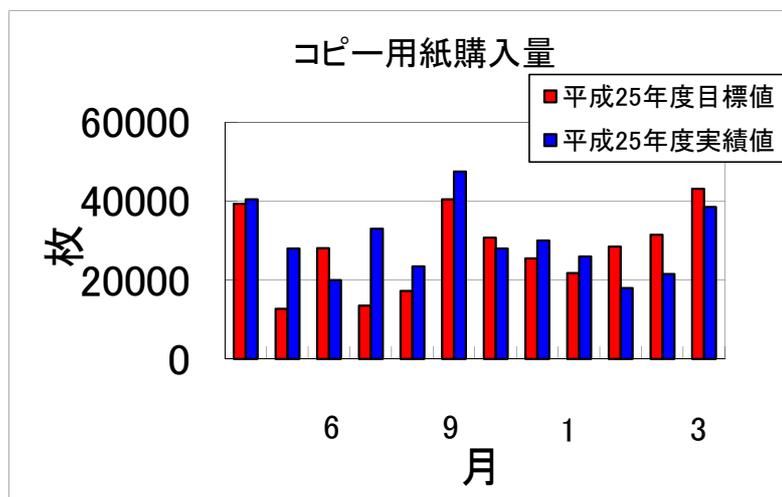
(ガソリン、軽油)



	二酸化炭素排出量(kg-CO ₂)			売上高あたり(CO ₂ /百万円)			台数あたり(CO ₂ /台)
	ガソリン	軽油	トータル	ガソリン	軽油	トータル	トータル
目標数値	151,572	122,401	273,973	23	19	42	4892
平成25年度	155,637	98,623	254,260	24	15	39	4540
比	1.03	0.81	0.93			0.93	0.93

平成25年度の化石燃料によるCO₂の排出量はガソリンが155,637kg-CO₂、軽油が98,623kg-CO₂であった。ガソリンの排出量が増えたのは平成25年に人員が増え今まで稼働していなかった車も使用することになり増えたこと、売上が増えたことに仕事、出張の増加により増えたと思われる。軽油については目標を大きく下回ることができた。化石燃料の使用が甲信商事にとって環境負荷の大きな割合を占めるので次年度も新たな取り組みを含め全員で削減できるように取り組んでいきたい。

○紙類の購入量削減



	購入量	売上高あたり	人数あたり
目標数値	332,625	51	4,752
平成25年度	354,500	55	5,064
比	1.07		

平成25年度の購入量について、昨年度よりは削減できたが目標値を達成できなかった。本社に於いてペーパーレスソフトを導入し、FAXをペーパーレス化したが、削減はできたが大きな成果は得られなかった。仕事量の増加による印刷物の増加も考えられるが印刷するときのルールが必要を感じた。

○廃棄物の分別、再資源化

(単位:kg)

	可燃ゴミ	カン	ビン	廃プラ	金属	木屑	段ボール	紙リサイクル
平成24年度	3,465	74	40	5,845	5,860	13,660	5,779	917
平成25年度	5,381	53	40	10,063	6,216	19,906	6,250	1,123

データとしては上記のとおりである。

分別はきちんに行われていると思うので、資源物はリサイクルをしゴミを減らすよう取り組んでいる。

電子マニフェストの運用もきちんに行えているのでこれからもきちん取り組みたい。

今回は建材部営業所が本社と統合になったため廃棄物が増加してしまった。

○プロパンガス使用量について

プロパンガスの使用については、基本的に環境負荷への影響が少ない(CO₂排出量で全体のおよそ1%)と思われるため、プロパンガス使用の啓蒙活動を今後も続けていきたい。

○灯油の使用量について

灯油の使用については、基本的に環境負荷への影響が少ない(CO₂排出量で全体のおよそ1.3%)と思われるため、灯油の使用の啓蒙活動を今後も続けていきたい。

○水資源の使用量について

水資源の節約については基本的に生活用水としか使用していないため節水の啓蒙活動を今後も続けていきたい。

○省エネ商品の提案について

各部門において様々な活動を行ってきた。

工作機械の更新、省エネコンプレッサーの提案導入、LED照明の提案導入、PSIの提案導入、F☆☆☆☆の商品の提案導入に取り組んでいる。

継続して取り組みたい。

○化学物質の保管及び運搬について

消防法等に準じ適正な保管、運搬を行った。

次年度以降も法令に準じて取り組んでいきたい。

○社内外の清掃について

昨年に引き続き毎月1日に全社での社内外の清掃の日を決めて行った。



清掃風景

☆工事現場の結果と評価

工事現場での電力も使用しているが、使用量の契約ではないため使用量の把握は困難である。

使用金額は平成25年度分で198,500円である。

発電機も使用したが、基本的に下請けが用意するため化石燃料についても把握できなかった。

工事現場については廃棄物の排出量は以下のとおりである。

廃棄物	排出量(t)				
	コンクリート類	金属くず	廃プラスチック	汚泥	廃酸・アルカリ
平成24年度	6.7	5.52	0	0	0
平成25年度	0	0	3.7	0	0

アスファルト類、金属くず、汚泥は再生利用。

工事の内容によって排出されるものが違うので単純に比較は出来ないが、適切に産業廃棄物は処分できた。

来年度も法改正されれば法律に沿って活動を行っていく。

☆次年度の取り組み内容

平成26年度の取り組みは環境目標に沿って、二酸化炭素の排出量の削減、省エネ、廃棄物の削減による省資源活動及びエコ商品の提案、推進に取り組んでいく。

当社にとって最大の環境負荷となっている化石燃料の使用に対して、各社用車ごとの燃料使用量を毎月計測し社員全員が燃費向上に努め、省資源活動に積極的に参加する。

8.代表者による全体評価と見直しの結果

平成25年度の年が明け為替が円安へと方向転換し輸出産業にとっては明るい兆しが見え始める中、政府のデフレ脱却、経済成長に向かうなか、不安要素の多い平成25年度がスタートとなりました。

いろいろな状況の中、最終的には売上高、営業損益ともに当社創業以来の高い数字となりました。また、長年の懸案であった建材営業部の本社への統合が整い、昨年度の本社新築に続き本社建材部の倉庫を旧本社跡地に新築移転し、また上田営業所には機械部・公共部の倉庫を新築しました。環境活動の二酸化炭素の排出量については目標を達成できましたが、各項目の中では残念ながら目標を下回った部分もありました。

甲信商事にとって一番環境負荷の大きい化石燃料の使用ですが、ガソリンについてはレポートにもありますが社員も増え稼働率も増加、仕事件数自体も増えたことにより重要な取り組みが必要となっています。社用車を使用する一人一人がエコドライブに努められるよう、燃費等がわかるものを用意し

平成26年度より全員で取り組み、燃費の向上 すなわち

CO₂の削減を社員全員でしっかりと取り組んでいこうと思います。

またペーパーレスソフトの導入により効果は多少出ておますが、さらなる紙の使用量の削減には、印刷物の見直し 削減も必要となっています。

削減方法については今後検討する必要があります。

エコ商品の提案も引き続き取り組んでいきます。

平成26年度は新入社員も大勢入社し総勢で75人になりました。

次年度以降もさらに環境活動を活発に行い、社会に貢献するよう努力したいと考えます。

代表取締役
横山 晋一

9. 環境関連法規等の遵守状況の確認および評価の結果ならびに違反、訴訟等の有無

○当社に適用される関連法規の遵守状況

環境関連法規	該当する活動	遵守状況
廃棄物処理法	マニフェストの管理の徹底(紙、電子マニフェスト) 廃棄物処理業者との適正な契約(許可証の確認、処分場の視察)	遵守
消防法	危険物保管の指定数量以上の許可申請 消火器および火災報知器等の点検及び届出	遵守
毒劇物取締法	毒物及び劇物の使用及び運搬	遵守
フロン回収・破壊法	特定製品の廃棄時のフロン回収	遵守
自動車リサイクル法	使用済み自動車の再資源化 (リースアップ後リース会社へ返却)	遵守
家電リサイクル法	TV、洗濯機、冷蔵庫、エアコンの適切な廃棄	遵守
PRTR法	特定化学物質の流通量の管理	遵守
建設リサイクル法	対象工事における届出書面の作成	対象なし
道路交通法	道路における対象工事・作業の許可申請	遵守
騒音規制法	指定地域における建設作業と届出	対象なし
振動規制法	指定地域における建設作業と届出	対象なし

定期的に当社に適用される環境関連法規は片桐環境管理責任者が適切にチェックを行っており、環境関連法規への違反はありません。なお、関係機関および近隣住民からの苦情、訴訟等の指摘は過去一件もありません。